

## 長寿社会のコミュニティづくりを担う ～五個荘金堂町「金堂寿会」～

**五個荘金堂町**は、人口634人、236世帯、高齢化率約37.2%の自治会である。近江商人発祥の地として知られ、その町並みは平成10年（1998）に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、平成27年（2015）に、日本遺産「琵琶湖とその水辺景観-祈りと暮らしの水遺産」の構成文化財にも選定された。金堂町の老人クラブである「金堂寿会」は、半世紀以上にわたり金堂町におけるコミュニティづくりの一翼を担い、活動を重ねている。

### 1. 金堂寿会の概要

金堂寿会が設立されたのは昭和39年（1964）である。「老人福祉法」が制定される前年に設立された。この頃の日本の高齢化率は、まだ6%台前半であった。

初代会長は、山村文七郎さんである。山村さんは、中江富十郎氏の屋敷の庭に池泉回遊式の庭園を創った、名庭師である。この屋敷はしばらく空き家になっていたが、平成20年（2008）11月から「特定非営利活動法人金堂まちなみ保存会」により「金堂まちなみ保存交流館」として活用され、多くの人が訪れている。

金堂寿会は、「金堂始まりの寺」とされる安福寺を拠点として活動している。江戸時代末期

から住職はいないといわれ、現在もいない。長年大字金堂区が管理していたが、金堂寿会が管理するようになった。

金堂寿会の入会資格は、60歳以上の方である。年会費は1,000円、ただし80歳以上は500円である。

満58歳となる住民に、役員が入会勧誘をする。会員数は、現在男性86名、女性80名、合わせて166名である。令和3年（2021）に満58歳を迎えるのは男性5名、女性6名であり、男性は全員、女性は2人が入会する予定である。

役員数は15名、任期は2年である。2年間の任期が終了すると、役員から男性が三役として、もう1年間任期を務める。役員の約半数は現役で働いている。

### 2. 金堂寿会の活動

役員は毎日交替で、川の鯉の餌やりと川のゴミ上げを行う。川を美しく保ち、悠々と泳ぐ鯉の世話をする。観光地である金堂町ならではの活動である。

毎月1日には大城神社の清掃を行い、18日に観音講をお勤めする。安福寺には、毎月1日と18日に御仏供と花を供える。お供えの花は、



安福寺の全景。左隣が「老人憩いの家」。右後ろには大城神社の神輿を保管する神輿蔵がある。



弘誓寺の前の美しい川を悠々と泳ぐ錦鯉たち。

本堂に繋がる建物「老人憩いの家」玄関前に置くバケツに、住民の方が厚意で持ち寄る。

新年1月に、安福寺で新年法要を行う。先祖代々のお札を作つて安福寺の斜め向かいにある「淨榮寺」のご住職にお経をあげて頂く。

お札は回向（えこう）として会員に配る。

そして、会員の傘寿（80歳）、米寿（88歳）、金婚を祝い表彰する。

一方、お亡くなりになる会員の方もおられる。毎年10名ほどの会員の方がお亡くなりになる。お悔みには香典をお供えし、金堂寿会の会旗を奉げ故人のご冥福をお祈りする。

また、金堂農水環境保全協議会に協力して「金堂コスモス園」を開催する。今年は10月31日に開催した。また、芝桜の雑草除草作業、草の根広場の清掃や草刈りも行っている。これらの活動は自治会行事とは別である。

会員の親睦を図るために日帰り旅行も実施しているが今年はコロナ禍で中止とした。そこで、



10/31に開催した金堂コスモス園。幟も立っている。(写真:金堂まちなみ保存会ブログ)

役員が手分けし、記念品として生活必需品のゴミ袋を持って全会員宅を訪問した。

今年（令和2年）は、自治会行事の多くを中心せざるを得ない状況となつたが、金堂寿会では「猪子山北向岩屋観音ハイキング」を10月11日（日）に実施し、19名が参加した。



ハイキングを企画・運営した寿会の役員の方々（写真:金堂まちなみ保存会ブログ）

### 3. これからも

高齢化率や平均寿命が大きく伸び、社会や暮らしの姿が変わる中、半世紀以上に亘り会員の健康と幸せを願い活動を続けている金堂寿会。

自治会長の山村眞司さんは「以前は、寿会と生活が密着していた」と話す。

金堂寿会会长の塚本英雄さんは、「これからは憩いの家をもっと活用した活動をしたい。詩吟をしたり、囲碁や将棋を指したりできれば」と話す。耕作しなくなった畠に、「金堂寿会で花を植えてみたい」と話す。

山村さんは、「自治会の防災活動と金堂寿会は、コロナ禍でも変わらず活動を続けています。金堂寿会は、むしろ『何かせなあかん』と活動を増やそうとしています」と笑って話す。

金堂寿会は、長寿社会における金堂町のコミュニティ活動の世話役であり、新たな時代のコミュニティづくりの担い手として、活動を重ねていくのである。